

自然観察 NOW

NO : 60

野幌森林公園自然情報

発行 : 2021年11月7日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



◎越冬する植物・ラン科の越冬葉

寒さと乾燥の厳しい冬を、植物たちはどのように過ごして春を迎えるのでしょうか。日本のように冬は気温が低く乾燥する地域の植物は、初冬までには種子散布を行い、その後は夏から作ってきた冬芽で休眠して冬を過ごします。高木や低木に巻き付く蔓植物は、地面より上の枝や茎に冬芽をつけて過ごします。多年生の野草は、地中の地下茎や塊根に冬芽をつけます。一年生の野草は、種子散布した種子で冬を過ごします。晩秋のこの時期には、ほとんどの野草達は種子散布を済ませ葉茎が枯れた姿をしています。一方この時期に、青々とした葉を地面に出している野草達もあります。それがラン科の越冬葉です。かれらは春に開花して、その後葉茎は枯れますが秋に新葉を出して越冬します。以下、越冬葉で秋から翌年の春までを過ごす3種類のラン科野草を紹介します。



◎サイハイラン・采配蘭

(ラン科サイハイラン属多年草)

1. 5月下旬～6月に開花、花は紅紫色が多くや一方に偏って斜め下向きに多数つけます。
2. 新葉は、秋に偽球茎から1枚から2枚出て越冬し、翌年の春の開花後に枯れます。
3. 名前の由来は、花のつき方を大将が軍勢の指揮に用いた采配に見立ててつけられました。



◎コケイラン・小蕙蘭

(ラン科コケイラン属多年草)

1. 6月～7月に開花、多数の小さな花がつき萼片は黄色で白い唇弁には紅紫色の斑点があります。
2. 新葉は、秋に偽球茎から2枚出て枯れずに越冬し、翌年の春から夏の開花後に枯れます。
3. 名前の由来は、シランの仲間を蕙蘭といい葉の形が似ているが小形なのでつけられました。



◎トケンラン・杜鵑蘭

(ラン科サイハイラン属多年草)

1. 6月開花、花はまばらに数個から12個つき、萼片は黄褐色で紫色の斑点があります。
2. ホトトギスの胸のような暗紫色の斑点が目立つ新葉が秋に出て越冬し、翌年の春の開花後に枯れます。
3. 名前の由来は、花卉の斑点を鳥のホトトギスの胸から腹部にある斑点に見立てました。

では何故、これらのラン科の野草は秋に越冬葉を出して青葉のままで越冬するのでしょうか。メリットは、秋が深まると木々の落葉が進み林床にも日光が届くようになります。また、周囲の背の高い野草達の枝葉も枯れてくるので、背の低い越冬葉にも日光が当たるようになります。その日光で光合成をして地下茎や根茎に栄養を貯め、次年度いっきに成長するのだと思います。秋から初冬にかけての林床に注ぐ日光を有効活用しているのです。また降雪した場合には、雪の下で寒さや乾燥を防ぎながら雪解けを待つことができます。デメリットは、予想外の大寒波により越冬葉がしばれて枯れることでしょう。そのリスクを考慮しても、秋の日光を活用して命を繋いできたのです。逞しい生命力だと思います。

<秋に新葉を出さないが、この時期でも青葉で越冬する2種類のラン科野草>



◎サルメンエビネ・猿面海老根

(ラン科エビネ属多年草)

1. 5月～6月開花、花は萼片と花弁は緑色かかった黄色、唇弁は3裂で猿の顔のような赤茶色をしています。
2. 春に越冬葉とは別に新葉を3～4個出し、そこに花をつけます。新葉は、そのまま開葉し枯れずに越冬して翌年の春の開花後に枯れます。
3. 名前の由来は、赤茶色の唇弁を猿の顔に見立てました。



◎アケボノシュスラン・曙繻子蘭

(ラン科シュスラン属常緑多年草)

1. 8月～9月開花、茎頂に数個の淡紅紫色を帯びた白色の花をやや偏ってつけます。
2. 地生の常緑の多年草で、冬でも根元近くの葉がついたまま越冬します。
3. 名前の由来は、花の色を夜明けの空の色に、葉の様子が織物の繻子に似ることからつけられました。

調べてみると、ラン科の野草達の1年間の過ごし方には、大きく4つに分類されることがわかりました。サイハイランのように、春の開花後に葉は枯れて秋に新葉を出して越冬するもの。サルメンエビネのように、春に越冬葉とは別に新葉を出して開花しその葉がそのまま越冬するもの。ギンランやエゾスズランのように、春から夏に開花しその後も遅くまで葉を残して夏や秋には枯れるもの。アケボノシュスランのように、夏から秋にかけて開花し常緑の葉で越冬するものです。それぞれが環境を上手に利用して、毎年美しい花を咲かせるラン科の野草達の生き方に感心しました。

<参考文献>

- ・「北海道の花」梅沢俊著・北海道大学出版会
- ・「北海道の植物、野の花(上・下)」北海道新聞社
- ・「おもしろい草花の話」北海道林業改良普及協会
- ・「日本の野草(春・夏)」株式会社学習研究社
- ・ネット情報、その他

文責：阿部 徹

◎今後の観察記予定

- ・1月 9日(日) ⇒ 円山登山観察会(主催)、10:00~12:30、円山八十八ヶ所登山口集合
- ・2月 6日(日) ⇒ 冬の森観察会(主催)、10:00~12:30、自然ふれあい交流館駐車場集合
- ・3月27日(日) ⇒ 森の中で春を探そう(共催)、9:50~11:00、自然ふれあい交流館前集合